

『陀羅尼雜集』所収の經典について

落合 俊典

まえがき

『陀羅尼雜集』十卷は、『開元録』の入藏録の賢聖集に収録され、智昇の考証によって撰者未詳、梁代成立とされている。智昇は本書に対して殊のほか思い入れがあり、経録編集に当たって詳細に内容の検討を行なっているが、その理由は至って明快なものであった。

唐の開元年間、時あたかも則天武后の影響が濃厚な唐中期、経録もまた『大周録』を權威としていたが、『大周録』において『陀羅尼雜集』は大乗経単本にして翻訳者の不明な失訳であると述べられている。陀羅尼呪を含む種々の經典の一大集成である『陀羅尼雜集』を大乗単訳とする杜撰な分類に対して智昇は念の入った反論を書くことになる。その骨子は時代の異なった翻訳經典が入っていることから中国で編集されたもの、ということである。⁽¹⁾

ところでこの智昇の主張を検討していくと種々興味深いことが分かってきたが、何よりも種々の經典を集成した混合体である『陀羅尼雜集』自体を説明する必要性に迫られてきた。奥深い密林に迷い込み方向が定まらないままであるが、全体説明の糸口と思われる幾つかの道を見いだしたので愚説を開陳し批正を仰ぎたいと願う次第である。

一、『陀羅尼雜集』中の陀羅尼經典

『陀羅尼雜集』十卷のなかには二七六種ほどの陀羅尼が収集されているが、併せて陀羅尼の説かれる經典も収録されている。經典は部分というより全文収録されていることが多い。そのため一切經入藏の經典と重複することになる。本書のみに見られる經典は漢訳經典研究史上興味深い資料と出ることが出来る。中には『開元錄』で欠本とされた經典も含まれている。

ここでは、『陀羅尼雜集』中の陀羅尼を列挙し、それらがどのような經典に含まれるのかその出典を巻ごとに挙げて考察してみたいと思う。なお陀羅尼名は巻首の目次を挙げたが、本文と若干異なるものもある。

『陀羅尼雜集』卷一

1. 七仏所説大陀羅尼神呪……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷一に同文あり。

〔大正藏〕二二卷五三六頁中段～五四一頁上段一〇行

七仏の説く陀羅尼が經文とともに挙げられている。七仏とは、維衛仏（毘婆尸）・式仏（尸棄仏）・隨葉仏（毘舍浮仏）・拘樓秦仏（拘留孫仏）・拘那含牟尼仏・迦葉仏・釈迦牟尼仏の過去七仏のことである。次いで八菩薩の説く陀羅尼が經文とともに挙げられている。八菩薩とは、文殊師利菩薩・虚空藏菩薩・觀世音菩薩・救脫菩薩・拔陀和菩薩・勢至菩薩・大勢菩薩・堅勇菩薩を謂う。これらの陀羅尼及び經文は東晋失訳『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』の卷一と全く同文であり、『陀羅尼雜集』の編者は全文そのまま引用したものである。

『陀羅尼雜集』卷二

1. 釈摩男呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷一に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四一頁下段八行～三三行)
2. 阿難比丘呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷一に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四一頁下段二四行～五四二頁上段二二行)
3. 普賢菩薩呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷一に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四二頁上段二二行～一九行)
4. 文殊師利菩薩呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷一に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四四頁下段二七行～五四五頁中段九行)
5. 定自在王菩薩呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四五頁中段一〇行～二二行)
6. 妙眼菩薩呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四五頁下段二三行～二八行)
7. 功德相嚴菩薩呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四五頁下段一九行～五四六頁上段二六行)
8. 善名称菩薩呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四六頁上段二七行～中段一九行)
9. 宝月光明菩薩呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四六頁中段二二行～下段三三行)
10. 北辰菩薩妙見呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。

『陀羅尼雜集』所収の經典について(落合)

11. 太白仙人呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四七頁中段四行～下段一〇行）
12. 熒惑仙人呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四七頁下段一〇行～五四八頁上段二二行）
13. 大梵天王呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四八頁上段一三行～中段二二行）
14. 自在天王呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四八頁中段一三行～下段九行）
15. 化樂天王呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四八頁下段一〇行～五四九頁上段一四行）
16. 兜率陀天王呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四九頁上段一五行～中段二二行）
17. 炎摩天王呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四九頁中段一三行～二九行）
18. 切利天王呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷二に同文あり。
〔大正蔵〕二二卷五四九頁下段二行～二二行）

この卷二の陀羅尼は都合一八呪見られるが、前の三呪は『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷一からの引用であり、後の一五呪は同卷二からの引用である。『陀羅尼雜集』卷一もすべて『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』か

らの引用で成り立っているということになる。

『陀羅尼雜集』卷三

1. 摩醯首羅天王呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷三に同文あり。
 (『大正藏』二二卷五四九頁下段一八行～五五〇頁中段一〇行)
 2. 八臂那羅延天呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷三に同文あり。
 (『大正藏』二二卷五五〇頁中段一一行～下段二〇行)
 3. 大功德天呪一首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷三に同文あり。
 (『大正藏』二二卷五五〇頁下段二一行～五五二頁上段一七行)
 4. 八龍王呪八首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷三に同文あり。
 (『大正藏』二二卷五五二頁上段一八行～五五四頁下段二二行)
 5. 諸菩薩天王龍王發願説偈……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷四に同文あり。
 (『大正藏』二二卷五五四頁下段一九行～五五六頁下段二七行)
- 『陀羅尼雜集』卷三もまた『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』からの全文引用で編成されている。1. の摩醯首羅天王呪から4. の八龍王呪までが『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷三、5. の諸菩薩天王龍王發願説偈が同巻四に平行文を見出すことができる。仏・菩薩から天王・龍王へと展開していくようになっていっている。編者の意図が若干窺われるように思われる。

『陀羅尼雜集』卷四

『陀羅尼雜集』所収の經典について(落合)

『陀羅尼雜集』所収の經典について（落合）

六四

1. 阿弥陀鼓音声王陀羅尼一首……………『阿弥陀鼓音声王陀羅尼經』（大正藏三七〇番）と全同
2. 發菩提心陀羅尼一首……………出典未詳
3. 日藏菩薩陀羅尼一首……………出典未詳
4. 護諸童子陀羅尼經〈三藏菩提留文訳〉……………『仏説護諸童子陀羅尼經』（大正藏一〇二八番）と全同。
『法苑珠林』卷六〇に引用あり。
5. 金剛秘密善門陀羅尼七首……………『金剛秘密善門陀羅尼經』（大正藏一一三八番）と全同
6. 最勝灯王如来所遣陀羅尼一首……………該當經典ナシ
7. 阿逸多王菩薩説饒益善利色力名譽陀羅尼一首……………出典未詳
8. 文殊師利菩薩説饒益善利色力名譽陀羅尼一首……………出典未詳
9. 釈迦牟尼仏説大饒益陀羅尼一首……………出典未詳
10. 四天王説護持前呪者陀羅尼一首……………出典未詳
11. 救阿難伏魔陀羅尼一首〈出大涅槃經〉……………北本『涅槃經』卷四〇（大正藏一二卷六〇二頁上段一〇行）
（中段三行）に略同。但し陀羅尼の想定梵語は類似するように思えるも訳語相応せず。
12. 正語梵天説応現滿願陀羅尼一首……………出典未詳
13. 摩尼跋陀天王説称願陀羅尼一首……………出典未詳
14. 婆視羅仙人説救一切病種種方法陀羅尼一首……………出典未詳

この『陀羅尼雜集』卷四の編成は卷一から卷三の箇所と比較して必ずしも統一がとれているとは言えない。恐らくは『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』以外の陀羅尼經典を概略であるが、仏・菩薩・天王・梵天・仙人の順に編集したものと考えられる。發菩提心陀羅尼と日藏菩薩陀羅尼の出典經典は全く不明であるが、この二經典は類

似した用語を使っていることから関連経典と言えるだろう。『仏説護諸童子陀羅尼經』は北魏の菩提流支（五二七）訳とされているが、つぎの『金剛秘密善門陀羅尼經』は東晋代の失訳とされている。さらに次の仏説最勝灯王如来所遣陀羅尼句は「該当經典ナシ」としたが、類似した関連経典は多い。この点に関しては、拙稿「『呪土經』と失訳陀羅尼經典」（『佐藤良純先生古稀記念論文集』所収）のなかで次のように触れておいた。

福田亮成氏は『陀羅尼雜集』卷四所載の「仏説最勝灯王如来所遣陀羅尼句」は、闍那崛多訳『東方最勝灯王陀羅尼經』や施護訳『仏説聖最上灯明如来陀羅尼經』等と同類であり、かつ最初の形態を有していると述べている。そしてグループを異にするが、密接な関係を有する經典は支謙訳『仏説持句神呪經』・曇無蘭訳『仏説陀隣尼鉢經』であると言う（福田亮成『陀羅尼雜集』の一考察―特に「仏説陀隣尼鉢經」について―『智山學報』第三十三輯。昭和五九年）。ところで、智昇は『陀羅尼章句經』について『開元錄』有訳無本録のなかで「陀羅尼章句經一卷（祐無章句）東晋失訳（第三訳）右一經與持句神呪經等同本。前後四訳。三存一闕。」（『大正藏』五五卷六三〇頁下段）と述べている。この言を信ずれば支謙訳『仏説持句神呪經』・曇無蘭訳『仏説陀隣尼鉢經』・闍那崛多訳『東方最勝灯王陀羅尼經』などと同類となり、『陀羅尼雜集』所載の「仏説最勝灯王如来所遣陀羅尼句」は『陀羅尼句經』ということになるであろう。

（『呪土經』と失訳陀羅尼經典（注6））

さて、7. 仏説救阿難伏魔陀羅尼句は「出大涅槃經」と出典を明かしているが、現行本の『涅槃經』と完全一致とは言えない。両者の間に介在した陀羅尼編集經典が存在したとも考えられる。また8. から10. までは出典が不明であり、かつまたこれらの梵天・天王・仙人などの性格も不明瞭である。摩尼跋陀天王は、『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷四に鬼子母の子とあり、また『大日經疏』などには夜叉八大将の一に数えられているが、出所經典は不明のままである。

『陀羅尼雜集』卷五

1. 仏説除一切恐懼毒害伏悪魔陀羅尼一首……出典未詳
2. 仏説止女人患血至困陀羅尼一首……出典未詳
3. 仏説除・難陀羅尼一首……出典未詳。『法苑珠林』卷六〇に引用あり。
4. 仏説除災患諸惱毒陀羅尼一首……出典未詳。『法苑珠林』卷六〇に引用あり。
5. 仏説多聞陀羅尼一首……出典未詳。『法苑珠林』卷六〇に引用あり。
6. 佛説治瘡病陀羅尼一首……出典未詳
7. 觀世音説除熱病邪不忤陀羅尼一首……出典未詳
8. 四天王説呪昌蒲含之令他人歡喜陀羅尼一首……出典未詳
9. 觀世音菩薩心陀羅尼一首……出典未詳
10. 請觀世音自護護他陀羅尼一首……出典未詳
11. 觀世音説求願陀羅尼一首……出典未詳
12. 仏説乞雨陀羅尼一首……出典未詳
13. 那羅延天説治瘡病陀羅尼一首……出典未詳
14. 仏説滅除十惡陀羅尼一首……出典未詳
15. 觀世音説治五舌喉塞呪土塗之陀羅尼一首……出典未詳。本卷六の22觀世音説除五舌若喉塞若舌縮陀羅尼と同文。
16. 仏説小兒中入悪眼陀羅尼一首……『仏説呪小兒經』（大正藏一三三九番）に全同
17. 仏説滅罪得入初地陀羅尼一首……出典未詳

18. 仏説若欲誦読一切經典先誦此陀羅尼一首……出典未詳
19. 結帶禁兵賊陀羅尼一首……出典未詳
20. 呪牙齒痛陀羅尼一首……『仏説呪齒經』(大正藏一三三七番)に全同
21. 降雨并繫龍陀羅尼二首(出大雲經)……出典特定できず、『法苑珠林』卷六〇に引用あり。
22. 觀世音說諸根不具呪草摩之陀羅尼一首……出典未詳。本卷六の13. 觀世音說能令諸根不具足者具足陀羅尼と類似。
23. 仏説呪土陀羅尼一首……該當經典ナシ。本文には「仏説呪土經(是偽經集呪者不知妄集在此)」とあるが、宋・元・明版の三本はこの經文が削除されている。
24. 尼乾天說令人易產陀羅尼一首……該當經典ナシ。卷八の5. 尼乾陀天所說生難呪と同文。
25. 呪穀子種之令無災蟻陀羅尼一首……出典未詳
26. 呪蛇蝎毒陀羅尼一首……出典未詳
27. 呪卒得重病悶絕者陀羅尼一首……出典未詳。本卷六の21. 觀世音說除卒病悶絕不自覺者陀羅尼と類似。
- 『陀羅尼雜集』卷五は出典を探れない陀羅尼及び經文が多い。現行の大正藏に平行文を見いだすことが出来るのは16. と20. であるが、その『仏説呪小兒經』と『仏説呪齒經』も『開元錄』の成立時には欠本とされていた經典である。陀羅尼を含む經典の扱いが低かったと言えるが、一方陀羅尼を集成した『陀羅尼雜集』の出現によって重複する經典の必要性が薄れた可能性もあるだろう。

『陀羅尼雜集』卷六

1. 除腫陀羅尼二首……出典未詳。本卷六の18. 觀世音說除身体諸陀羅尼と類似。

『陀羅尼雜集』所収の經典について(落合)

『陀羅尼雜集』所収の經典について(落合)

六

2. 治熱病陀羅尼一首……出典未詳。本卷六の14觀世音說治熱病陀羅尼に類似。
3. 治百病諸毒陀羅尼一首……出典未詳。『法苑珠林』六〇卷に引用あり。
4. 仏說呪作三衣并受持呪二首……出典未詳
5. 仏說呪心器錫杖坐具三首……出典未詳
6. 五戒神名二十五……『七仏八菩薩所說大陀羅尼神呪經』卷四に同文あり。
 (『大正藏』二二卷五五七頁中段二二行～二九行)
7. 三婦神名有九……『七仏八菩薩所說大陀羅尼神呪經』卷四に同文あり。
 (『大正藏』二二卷五五七頁下段二行～四行)
8. 護僧伽藍神有十八人……『七仏八菩薩所說大陀羅尼神呪經』卷四に同文あり。
 (『大正藏』二二卷五五七頁下段五行～二二行)
9. 觀世音說燒華心現得願陀羅尼一首……出典未詳
10. 觀世音說散華供養心沒陀羅尼一首……出典未詳。本卷十の12・散華觀世音足下陀羅尼と類似。
11. 觀世音說滅罪得願陀羅尼一首……出典未詳
12. 觀世音說除一切眼痛陀羅尼一首……出典未詳。本卷十の14・誦呪手摩眼除一切痛陀羅尼と類似
13. 觀世音說能令諸根不具足者具足陀羅尼一首……出典未詳。本卷五の22・觀世音說諸根不具草摩之陀羅尼と類似。
14. 觀世音說治熱病陀羅尼一首……出典未詳。本卷六の2・治熱病陀羅尼と類似。
15. 觀世音說除一切顛狂魘鬼神陀羅尼一首……出典未詳。本卷九の6・除一切顛狂病陀羅尼と類似。
16. 觀世音說除種種怖畏陀羅尼一首……出典未詳

17. 觀世音說除一切腫陀羅尼一首……出典未詳
18. 觀世音說除身体諸陀羅尼一首……出典未詳。本卷六の1. 除腫陀羅尼と類似。
19. 觀世音說除卒腹痛陀羅尼一首……出典未詳。『法苑珠林』卷六〇引用。
20. 觀世音說除中毒乃至已死陀羅尼一首……出典未詳
21. 觀世音說除卒病悶絕不自覺者陀羅尼一首……出典未詳。本卷五の27呪卒得重病悶絕者陀羅尼と類似。
22. 觀世音說除五舌若喉塞若舌縮陀羅尼一首……出典未詳。本卷五の15觀世音說治五舌喉塞呪土塗之陀羅尼と同文。

23. 觀世音說除種種癩病乃至傷破呪土陀羅尼一首……出典未詳
 24. 觀世音說呪澗底土吹之令毒氣不行陀羅尼一首……出典未詳
 25. 觀世音說呪藥服得一聞持陀羅尼一首……出典未詳
 26. 觀世音說呪五種色昌蒲服得聞持不忘陀羅尼一首……出典未詳
 27. 觀世音說除病肌生陀羅尼一首……出典未詳
 28. 觀世音說呪土治赤白下痢陀羅尼一首……出典未詳
 29. 觀世音說呪草拭一切痛處即除愈陀羅尼一首……出典未詳
 30. 觀世音說隨心所願陀羅尼一首……出典未詳
- この『陀羅尼雜集』卷六には三十の陀羅尼が挙げられているが、出典が分かっているのは6. 7. 8の三呪だけである。しかし興味深いのは『陀羅尼雜集』内部に類似もしくは同文の陀羅尼經典が多く見られることである。本巻内でも重複するものは十点多きを数える。すなわち、1. 2. 10. 12. 13. 14. 15. 18. 21. 22である。中でも1と18は、この六巻内における類似陀羅尼である。もちろん異訳を列挙したものであると想定することも

きるが、その意図があったならば同一箇所に連続して列挙していたであろう。つまり、この配列は整理が十分に行われなかった証左であると見なすべきなのである。

『陀羅尼雜集』卷七

1. 觀世音說滅一切罪得一切所願陀羅尼一首……出典未詳
2. 除障滅病至獲道果陀羅尼一首……出典未詳
3. 獲諸禪三昧一切佛法門陀羅尼一首……出典未詳。本卷十の5. 獲果利神增善陀羅尼と類似。
4. 見一切諸仏從心所願陀羅尼一首……出典未詳
5. 修念仏三昧陀羅尼一首……出典未詳
6. 無盡意菩薩說幢蓋願陀羅尼一首……出典未詳
7. 勝敵安退并治毒嚙及腫陀羅尼一首……出典未詳
8. 吉祥神呪一首……出典未詳
9. 仏説旋塔陀羅尼一首……出典未詳
10. 辟賊陀羅尼一首……出典未詳
11. 聞持陀羅尼一首……出典未詳
12. 仏説大七宝陀羅尼一首……『仏説大七宝陀羅尼經』（大正藏一三六八番）と全同
13. 仏説大普賢陀羅尼一首……『仏説大普賢陀羅尼經』（大正藏一三六七番）から抄出。
14. 四天王所説大神呪合六十六首……『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』卷四に同文あり。

この『陀羅尼雜集』卷七の14. 四天王所説大神呪は合計六十六の陀羅尼を含み、卷七全体の六割強を占める。陀

羅尼の数からみると八割強となる。出典は卷一、卷二、卷三、卷六に引用された『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』である。『陀羅尼雜集』（十卷。『開元錄』一八八紙）は『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』（四卷。『開元錄』七三紙）の約九割を引用している。紙数に換算すると六五紙ほどである。

『陀羅尼雜集』卷八

1. 仏説六字大陀羅尼經一品……『仏説六字大陀羅尼經』（大正蔵一〇四六番）と全同
2. 仏説檀特羅麻油述神呪經一品……『仏説檀特羅麻油述神呪經』（大正蔵一三九一）と略同。大正本には「摩那叉」で始まる偈が付いているが、『陀羅尼雜集』には見られない。
3. 阿夷騶呪病經一首……『開元錄』卷二十「不入蔵目錄」所載の『阿夷鄒呪經』を指すと思われる。
4. 仏説呪六字神王經一品……『開元錄』卷二十「不入蔵目錄」所載の『阿夷鄒呪經』を指すと思われる。
5. 尼乾陀天所説生難呪一首……出典未詳。本卷五の24. 尼乾天説令人易産陀羅尼と同文。
6. 大自在天王所説呪名摩醯首羅天一首……出典未詳
7. 大自在天及其眷屬所説呪一首……出典未詳
8. 大神仙所説呪一首……出典未詳
9. 阿修羅天神斷注不得還著病人呪一首……出典未詳
10. 大神仙赤眼呪牙齒識經一首……出典未詳
11. 梵天呪句文一首……出典未詳
12. 一大梵天女尚衢梨所説呪一首……出典未詳
13. 甘露天説一切毒呪一首……出典未詳

『陀羅尼雜集』所収の經典について（落合）

『陀羅尼雜集』所収の經典について(落合)

七二

14. 大梵天説甘露呪能使毒氣入地一首……出典未詳
15. 甘露梵天女阿婆耆説一切毒呪一首……出典未詳
16. 觀世音菩薩説陀羅尼呪一首……出典未詳
17. 呪疫病文一首……出典未詳
18. 呪癰腫文一首……出典未詳
19. 仏説摩尼羅檀呪經一品……『仏説摩尼羅檀經』(大正蔵一三九三番)と略同。また『灌頂經』卷八所収の「摩尼羅檀大神呪經」も相似する。新井慧譽『摩尼羅檀經』類の訳經的考察」(『印度学仏教学研究』二四卷二号。昭和五一年)
20. 仏説神水呪經一首……出典未詳
21. 梵天王釈提桓因神呪一首……出典未詳
22. 四天王神呪一首……出典未詳

この『陀羅尼雜集』卷八には阿夷騶呪病經という極めて特殊な經典が収載されている。『開元録』の編者智昇は本書を欠本としたばかりでなく、『大周録』批判の一例として取り上げた。『大周録』に入蔵されているにもかかわらず、本書は諸寺院のどの経蔵にも見あたらないと批判したのである。参照：拙稿『阿夷鄒呪經』は『開元録』欠本か」(『宮林昭彦先生古稀記念論文集』所収)。

『陀羅尼雜集』卷九

1. 阿吒婆拘上仏陀羅尼一品有三首……『阿吒婆拘鬼神大將上仏陀羅尼神呪經』(大正蔵一二三七番)と全同。

2. 仏説陀隣尼鉢經一品有三首（仏説陀隣尼鉢經）……『仏説陀隣尼鉢經』（大正蔵一三五二番）と全同。
3. 仏説集法悅捨苦陀羅尼一首（集法悅捨苦陀羅尼經）……『七仏八菩薩所説大陀羅尼經』卷二（大正蔵二 一卷五四四頁中段五行〜下段二六行）及び『觀虚空藏菩薩經』（大正蔵一三卷六七九頁下段二九行 一六八〇頁中段二三行）に同文あり。
4. 觀世音説隨願陀羅尼一首……出典未詳。本卷十の3. 觀世音説 応現与願陀羅尼と同文。
5. 乞夢知吉凶陀羅尼一首……出典未詳
6. 除一切顛狂病陀羅尼一首……出典未詳。本卷六の15. 觀世音説除一切顛狂癩鬼神陀羅尼と類似。
7. 除怖畏陀羅尼一首……出典未詳
8. 結藥界陀羅尼一首……出典未詳
9. 復有求夢陀羅尼一首……出典未詳
10. 仏説呪時氣病陀羅尼一首……『仏説呪時氣病經』（大正蔵一三三六番）と略同。
11. 行住隨方面婦依称十方仏名号一首……出典未詳
12. 仏説偈令人誦得長寿一首……偈文は『五分律』卷二六（大正蔵二二卷一七一頁上段二三行〜二六行）に見える。また王日休撰『龍舒増広浄土文』卷四（大正蔵四七卷二六二頁中段）には長寿偈として引用されている。またここには、「仏説一切大吉祥滅一切惡陀羅尼」が付されている。これは本来別出しなければならないものである。
13. 仏説大小乘觀別出觀仏三昧經一段（仏説觀仏三昧觀四威儀品中出）……『觀仏三昧海經』（大正蔵一五 卷六八二頁中段二六行〜下段六行）に同文あり。

この巻九に収録されている11. 行住隨方面婦依称十方仏名号と12. 仏説偈令人誦得長寿および13. 仏説大小乘觀

別出觀仏三昧經一段の三点は、如何なる陀羅尼であろうか。11は十方の仏の名号が列挙されているだけである。三世十方の仏の名を称える仏名思想の根底には懺悔滅罪が見られるとは言え陀羅尼と結びつけるには早計であろう。また、12は偈文であって決して陀羅尼ではない。しかも『五分律』に典拠を見いだせる經文である。13も『觀仏三昧海經』の經文を抄出したに過ぎない。編集意図が読めない箇所と言えよう。

『陀羅尼雜集』卷十

1. 定志慧見陀羅尼一首……出典未詳
2. 八兄弟陀羅尼一首……出典未詳
3. 觀世音說応現与願陀羅尼一首……出典未詳。本卷九の4. 觀世音說隨願陀羅尼と同文。
4. 日藏經中除罪見仏陀羅尼一首……出典未詳
5. 獲果利神增善陀羅尼一首……出典未詳。卷七の3. 獲諸禪三昧一切仏法門陀羅尼の文（大正藏二二卷六一七頁中段三行〜一九行）に類似。
6. 善護除病陀羅尼一首……出典未詳
7. 進果獲証修業陀羅尼一首……出典未詳
8. 結縷除睡蒙護陀羅尼一首……出典未詳
9. 呪蘇除睡不飢益乳陀羅尼一首……出典未詳
10. 見仏隨願陀羅尼一首……出典未詳
11. 觀世音現身施種種願除一切病陀羅尼一首……出典未詳
12. 散華觀世音足下陀羅尼一首……出典未詳。卷六の10. 觀世音說散華供養応沒陀羅尼（大正藏二二卷六一

二頁下段一〇行〜一八行)に類似。

13. 念觀世音求願陀羅尼一首……出典未詳
14. 誦呪手摩眼除一切痛陀羅尼一首……出典未詳。卷六の18. 觀世音說除身體諸痛陀羅尼(大正藏二二卷六一三頁下段二〇行〜六一四頁上段五行)と類似。
15. 呪鹽水飲腹痛者陀羅尼一首……出典未詳
16. 除卒中毒病欲死者陀羅尼一首……出典未詳
17. 除曠恚陀羅尼一首(出日藏)……出典未詳
18. 觀世音除業障陀羅尼一首……出典未詳
19. 仏説呪泥塗身塗幢塗藥塗毒塗腫陀羅尼一首……出典未詳
20. 樂虛空藏菩薩陀羅尼一首……『觀虛空藏菩薩經』(大正藏一三卷六八〇頁中段二四行〜下段六行)に同

文あり。

21. 觀世音陀羅尼一首……出典未詳
22. 懺悔擲花陀羅尼一首……出典未詳
23. 呪腫陀羅尼呪一首……出典未詳
24. 呪癰瘡中惡陀羅尼一首……出典未詳
25. 日藏中護眼陀羅尼一首……出典未詳
26. 四天王呪除一切不祥合五首(四天王呪經)……出典未詳

『陀羅尼雜集』卷十もまた出典未詳の経文・陀羅尼が多い。そして重複するものは3.と5.と14.である。編者の杜撰さであるのか、それとも書写伝承の間に齟齬を来してしまったのか全く不明である。

『陀羅尼雜集』所収の經典について(落合)

*

*

以上の巻次ごとの考察によって『陀羅尼雜集』がどのように編集されているか概略理解できたことと思う。もとより箇々の陀羅尼及び經文の考察は未だ十分とは言えないが、如何に精査しても本書の編集意図は容易に見えて来ないであろう。それは本書が成立していた段階と現行本に至るまでに何らかの手が加えられた可能性が大であると思われるからである。

この仮説を実証するためには、祖本もしくは祖本に近接した状態を有している写本を探し出すことが有効である。幸い筆者の近年の研究によれば高麗版や宋版等の一切経よりも奈良・平安写経のほうが唐代仏教經典の実態に近いことが証明されつつある。この方面からの研究に資する平安写経の中から一点を取り上げ成立と変遷を考えてみたい。

二、金剛寺藏の『雜呪集』と『陀羅尼雜集』

大阪府河内長野市に在る真言宗御室派大本山の天野山金剛寺には平安院政期から鎌倉時代にかけて書写された四千数百巻の一切経が蔵されている。ここの当該経である『雜呪集』巻一、巻三、巻五並びに『陀羅尼雜集』巻八、巻九、巻十の都合六巻の内容が頗る興味深い。書誌的な事柄は近々に刊行される報告書に譲るとして、大まかに内容を概観してみるならば、以下の如くなる。

金剛寺藏『雜呪集』巻一……………大正藏本『陀羅尼雜集』巻四と相似

金剛寺藏『雜呪集』巻二……………大正藏本『陀羅尼雜集』巻六と同文

金剛寺藏『雜呪集』巻五……………大正藏本『陀羅尼雜集』巻八と同文。但し尾題は「陀羅尼雜集卷

第五

金剛寺蔵『陀羅尼雑集』卷八（首欠）……大正蔵本『陀羅尼雑集』卷一部分＋卷二部分

金剛寺蔵『陀羅尼雑集』卷九……大正蔵本『陀羅尼雑集』卷三部分＋卷二部分

金剛寺蔵『陀羅尼雑集』卷十……大正蔵本『陀羅尼雑集』卷三部分＋卷七部分

大正蔵本『陀羅尼雑集』十巻を中心に見るならば、この金剛寺一切経中の当該経はまさに錯乱した姿を呈している写本に他ならないが、実はこの単純な比較は意外にも当該経の成立に関する重大な情報が入在されていることに気づかされるのである。

そもそも『雑呪集』という書名は『陀羅尼雑集』の異名なのであろうか。もしそうならば何時からの異名か。また金剛寺本は、『陀羅尼雑集』の異本なのであろうか。これらの謎を解明するには歴史的考察を加えなければならぬ。

かつては平安後期から鎌倉時代にかけて書写された一切経は宋刊本等の転写本と考えられていたが、昨今の筆者の調査に依れば刊本からの転写本は少数にとどまり、多くは奈良朝以来の転写本を中心に構成していることが判明しつつある。当該経についてもこの説が当てはまると考えられる。

奈良時代の書写記録を探ると天平一四年（七四二）に『雑呪集』を書写したことが記載されている。⁽²⁾『雑呪集』の題を有する金剛寺本はこの流れに属する写本なのであろう。

この説を裏付けるものとして、平安院政期から鎌倉時代に書写された各種の一切経を取り混ぜた西方寺一切経（大和郡山市）中の『雑呪集』があるが、未調査のため確認は将来に期さなければならぬ。⁽³⁾

次に中国における記録を探ってみよう。『雑呪集』という書名は隋・法経等撰の『衆経目錄』（『法経録』五九七年成立）卷二にはじめて記載される。ここには『雑呪集』以下六二の失訳陀羅尼經典が挙げられるが、それらを

『陀羅尼雜集』所収の經典について（落合）

七

一々検討していくと『陀羅尼雜集』に含まれる經典と一致相応するものが多いことに気づく⁽⁴⁾。その後『雜呪集』は隋の『仁壽錄』（六〇二年成立）卷二の小乘經重翻の一つとして挙げられる。

雜呪集十卷（一名陀羅尼集或九卷）⁽⁵⁾

唐の『靜泰錄』（六六五年成立）になると、その卷二二の小乘經重翻に

陀羅尼集十卷（一名雜呪集或九卷一百八十七紙）⁽⁶⁾

と出てくる。現行本『陀羅尼（雜）集』十巻の原型が出来上がりつつあることを示している。道宣の『大唐内典錄』卷八の歴代衆經見入蔵録の賢聖集伝に

陀羅尼集（十巻一帙）⁽⁷⁾

とあり、卷七の訳有無録に

陀羅尼集（十巻一百八十七紙一名雜呪集九巻）⁽⁸⁾

とあって、『陀羅尼集』と『雜呪集』が同一書名であることを確かなものにしてはいるが、『陀羅尼雜集』とはなっていない。この傾向は則天武后の時代にも続く。『大周録』の入蔵録に

陀羅尼集一部十巻（一名雜呪集一百八十七紙）⁽⁹⁾

となっている。現行本と同名になるのは『開元録』になってからである。この事実を重んじて考えるならば、書名が変更された理由は恐らく阿地瞿多訳『陀羅尼集經』十二巻が永徽五年（六五四）に現れたからと想定するのが適切であろう⁽¹⁰⁾。それでは『大周録』の段階で変更があってもよさそうであるが、本来の書名を尊重するのは当然のことであるから暫くは相似した書名が並行して行なわれたのであろう。事実、唐の總章元年（六六八）に著された『法苑珠林』卷六十の呪術篇に

仏説護諸童子陀羅尼經已下並出陀羅尼雜集經錄⁽¹¹⁾

と『陀羅尼雜集（經錄）』の經名が見られる。『陀羅尼集經』十二卷の訳出以来、誤認を避ける工夫がなされてきたと見なすべきであろう。

しかし実際には書名だけを変更しただけではない。金剛寺本と大正蔵本との簡単な比較によって理解できるように相当部分の組み換えを行っている。大正蔵本の卷一から卷三までは『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』四卷からの引用であるが金剛寺本では卷八・九・十に収録されている。その意図するところは容易に把握し難い。再び金剛寺本と大正蔵本との比較を見てみたいが、欠本となっている巻を補って考えていくことにする。

金剛寺蔵 『雜呪集』 卷一	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷四と相似
『雜呪集』 卷二	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷五か
金剛寺蔵 『雜呪集』 卷三	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷六と同文
『雜呪集』 卷四	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷七か
金剛寺蔵 『雜呪集』 卷五	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷八と同文
『雜呪集』 卷六	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷九か
『雜呪集』 卷七	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷十か
金剛寺蔵 『陀羅尼雜集』 卷八（首欠）	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷一部分＋卷二部分
金剛寺蔵 『陀羅尼雜集』 卷九	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷三部分＋卷二部分
金剛寺蔵 『陀羅尼雜集』 卷十	大正蔵本 『陀羅尼雜集』 卷三部分＋卷七部分

このような穴埋めの当否は確定できない。しかし金剛寺本は全十巻の過半を占める六巻を有している。当たらず

とも遠からずの範囲であろう。それでは何故に書名の変更だけではなく内容の組み換えまで行なわなければならなかったのだろうか。両本を比較してみても明確な答えは得られないが、大正蔵本の巻一から巻三までは『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』四巻からの引用であり、そして金剛寺本では巻八・九・十に収録されている。この変更は『雑呪集』に対する根本的な疑義を抱いた結果に相違ない。後半に収録していた陀羅尼經文を前半部分に置いたのは理由な何であろうか。金剛寺本の『雑呪集』巻一を見てみよう。

〔金剛寺蔵『雑呪集』巻一〕

雑呪集巻第一

金剛秘密善門陀羅尼第一

金剛密迹菩薩説擁護除惱陀羅尼第二

大梵天王説佐助受誦善門持者增寿除患陀羅尼第三

釈提恒因説一切不令諸惡得便陀羅尼第四

四天王説擁護一切不令惡人得便陀羅尼（第五）

花聚陀羅尼句第六

最勝灯王如来所遣陀羅尼第七

阿逸多菩薩説饒益善利色力名譽陀羅尼第八

文殊師利菩薩説饒益善利色力名譽陀羅尼第九

釈迦牟尼仏説大饒益陀羅尼第十

四天王説擁護持前呪者陀羅尼第十一

救阿難伏魔陀羅尼第十二

正語梵天説心滿願陀羅尼第十三

摩尼跋陀天王説称願陀羅尼第十四

婆視羅仙人説救一切病種種方法陀羅尼第十五

この構成は大正蔵本『陀羅尼雜集』卷四と若干異なるものである。前半の四つの陀羅尼、すなわち阿弥陀鼓音声王陀羅尼經、發菩提心陀羅尼、日藏菩薩陀羅尼、仏説護諸童子陀羅尼經を欠く形となっている。その検討は措くとして、恐らく本来の構成であった、このような順次を変更し卷四に組み入れたのは『雜呪集』に見られた陀羅尼の順次の不明瞭性にあつたのではないだろうか。『陀羅尼雜集』の卷一、二、三は、『七仏八菩薩所説大陀羅尼神呪經』からの丸々の引用とはいへ仏・菩薩・仙人・天王と形を整える姿勢が見られる。

三、まとめ

本稿では、『陀羅尼雜集』十卷の所収經典を検証し出典考証を試みた。その結果多くの經典が所載されていることが判明した。大正蔵に含まれるもの以外にも多くの經典が収載されているのも明確になった。しかし重複するものも随所に見られ、十分に練られ書物とは言えない。そこで金剛寺蔵の鎌倉時代書写の写本を手がかりにして成立と変遷について少しく考察を加えてみた。全容解明にはほど遠いが幾つか手がかりを得ることができたと思う。それは、本書は当初『雜呪集』もしくは『陀羅尼集』という書名であったが、唐代七世紀中葉に『陀羅尼集經』が訳出されたことにより書名変更を余儀なくされたと推察される。書名変更と内容の組み替えが同時に行われたのか、後代になってからなのか不明であり、その説明は今後の課題としたい。

(了)

注

- (1) 拙稿「『幻師阿夷鄒呪經』は『開元錄』欠本か」（『宮林昭彦先生古稀記念論集』所収。近刊予定。山喜房。）参照。拙稿「『呪土經』と失訳陀羅尼經典」（『佐藤良純先生古稀記念論集』所収。近刊予定）。
 - (2) 拙稿『大日本古文書』二卷三二〇頁。八卷九九頁。一二卷五二二頁。
 - (3) 拙稿『大和郡山市西方寺所蔵一切經調査報告書』（元興寺文化財研究所編集。大和郡山市教育委員会発行。昭和五九年）に載る当該經は次の六点である。
 - 二〇二五番「陀羅尼雜集卷第一」（平安・仁平二年）。
 - 二〇二六番「陀羅尼雜集卷第六」（平安）。
 - 二〇二七番「陀羅尼雜集卷第六」（平安）。
 - 二〇二八番「陀羅尼雜集卷第十」（平安）。
 - 二二七六番「雜呪集卷第四」（平安）。
 - 二二七七番「雜呪集卷第六」（平安・仁平二年）。
- 筆者は佐藤良純先生古稀記念論文集のなかの拙稿「『呪土經』と失訳陀羅尼經典について」で「雜呪集十卷もしくは雜呪集という書物が日本に伝来し、その転写本が幾つかの寺院の一切經中に存在する。それらを詳しく調査すれば『雜呪集』は『陀羅尼雜集』の異名もしくは同類の異本ということが実証される可能性がある。将来の調査に期したい。」（同論文注4）と述べた。その後金剛寺本の調査が進み中間報告となった。
- (4) 拙稿「『呪土經』と失訳陀羅尼經典について」参照。
 - (5) 『大正蔵』五五卷一六一頁中段

- (6) 『大正蔵』五五卷一九五頁下段
- (7) 『大正蔵』五五卷三二三頁上段
- (8) 『大正蔵』五五卷三〇一頁中段
- (9) 『大正蔵』五五卷四六〇頁中段。七寺一切経本『大周録』卷十三には「陀羅尼集経一部十卷（或十二卷一名雑呪集）」となっているが、これは『陀羅尼集』十卷と『陀羅尼集経』十二卷とが一行に混在された結果と考えられる。大谷大学図書館蔵の永久四年写法隆寺一切経本『大周録』卷十三は、「陀羅尼集一部十卷 一名雑呪集／陀羅尼集経一部十二卷」となっている。
- (10) 『大正蔵』五五卷三六八頁上段。三七九頁中段。五六二頁下段。
- (11) 『大正蔵』五三卷七四〇頁上段二二行。

仏教.

The title of the volume 1, volume 3, and volume 5 of Kongōji Manuscripts 金剛寺写本 serves as a *Za-zhou-ji* 雜呪集. Respectively, it is mostly in agreement with volume 4, volume 6, and the volume 8 of the *Tuo-luo-ni-za-ji* 陀羅尼雜集 of the Taishozo 大正藏 book. It guessed that the original title was *Za-zhou-ji* 雜呪集 from the consideration on these comparison historical investigation .

It was assumed that change of a title and exchange of the contents were based on the request which avoids misconception since *Tuo-luo-ni-ji-jing* 陀羅尼集經十二卷 twelve volumes was translated about the middle of the seventh century. Although the simultaneously confused dharani 陀羅尼 was arranged and the order of scrolls was replaced, it cannot be said that it was modified. The proof is left as it is in the state where 19 of 169 titles overlap or are similar.

*Professor,
International College
for Advanced Buddhist Studies*

Summary

On some sutras in the *Tuo-luo-ni-za-ji* 陀羅尼雜集

Toshinori OCHIAI

Tuo-luo-ni-za-ji 陀羅尼雜集十卷 ten volumes are recorded on the *xian-sheng-ji* 賢聖集 of *Kai-yuan-ru* 開元錄. Although many of conventional Catalogue of scriptures 經錄 had been treated as the "Buddhist scripture", Zhi-sheng 智昇 who is the author of *Kai-yuan-ru* 開元錄 concluded what edited this book in China as a result of verification.

The dharani 陀羅尼 of 276 sorts of real numbers is recorded on this *Tuo-luo-ni-za-ji* 陀羅尼雜集.

An interesting thing has not only dharani 陀羅尼 but many things in which the Buddhist scripture containing the dharani 陀羅尼 is mentioned. Those some are making with the book which was missing by *Kai-yuan-ru* 開元錄.

Then, historical investigation was tried about the source of the dharani 陀羅尼 quoted and the Buddhist scripture. The tables of contents currently mentioned to each scrolls are 169 totals. Although an unknown thing of sources is 73% of 124 points, if it measures by the quantity, it will become about 50%.

When it puts in another way, as for the part which is in agreement with the present Taishozo 大正藏 book, the amount of *Tuo-luo-ni-za-ji* 陀羅尼雜集 no less than five volumes are.

Next, the Kongōji Manuscripts 金剛寺写本 of *Tuo-luo-ni-za-ji* 陀羅尼雜集 was investigated. Kongōji -issaikyo 金剛寺一切經, from the cloister government term, it continued and was copied down into the Kamakura period. These are assumed to be a transfer book from Nara sutra-copying. That is, it will be close to the Tang Buddhism 唐

『国際仏教学大学院大学研究紀要』第6号 正誤表

Journal of the International College for Advanced Buddhist Studies, Vol. VI. Errata

『陀羅尼雑集』所収の経典について

八二頁 4、5行目

誤 (2) 拙稿『大日本古文書』二卷三二〇頁。八卷九九頁。一一卷五一二頁。

(3) 拙稿『大和郡山市西方寺所蔵一切経調査報告書』(元興寺文化財研究所編集。大和郡山市教育委員会発行。昭和五九年)に載る当該経は次の六点である。

正 (2) 『大日本古文書』二卷三二〇頁。八卷九九頁。一一卷五一二頁。

(3) 『大和郡山市西方寺所蔵一切経調査報告書』(元興寺文化財研究所編集。大和郡山市教育委員会発行。昭和五九年)に載る当該経は次の六点である。